

歯学部長の選任について

前田健康歯学部長の任期満了に伴い、歯学部長選考が行われました。歯学部長候補者推薦委員会で推薦された候補者から、歯学部教授会で2名の教授を選出し、学長宛に推薦しました。学長によ

る2名の候補者の面談を経て、井上 誠教授が歯学部長に選考されました。任期は令和5年4月1日から2年間です。

国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの採択について

海外から我が国の大学に留学する学生を国費外国人留学生として優先的に配置することにより、各大学において優秀な留学生を獲得する仕組みの構築を促すことを目的とする文部科学省事業「2022年度国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に採択されました。口腔生命科学専攻では、これまでASEAN地域を対象としたプログラム（毎年5名）、南米地域を対象としたプログラム（毎年3名）の2つのプログラムが採択

されていましたが、ASEAN地域に対するプログラムが更新時期を迎えるにあたり、新たにASEAN地域を対象としたプログラムを申請し、文部科学省の選考委員会の審査を経て、この度採択の通知を得ました。受入開始時期は2023年10月を予定し、毎年5名3カ年（15名、延べ720ヶ月）の受入となります。

(https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/boshu/1423005_00003.htm)

令和4年度Student Dentist認定証授与式・臨床実習登院式について

令和4年10月12日（水）に、Student Dentist認定証授与式及び臨床実習登院式を行いました。Student Dentist認定制度は、共用試験（CBT・OSCE）の結果を基に、診療参加型臨床実習に必要な知識、技能、態度を有した学生が歯科大学学長・歯学部長会議及びスチューデント・デンティ

スト認定運営協議会からの認定を受けるものです。今年度は歯学科5年次の学生35名がStudent Dentistに認定されました。

授与式では、前田歯学部長から訓示があり、本学のカリキュラムにおける臨床実習の位置づけやStudent Dentist認定の意義などが述べられま

した。訓示後には、認定証及びネーム刺繍が入った診療衣が学生に授与され、代表学生からは臨床実習に臨むにあたっての決意が宣誓されました。授与式に引き続いて行われた臨床実習登院式では、多部田医歯学総合病院副院長と藤井臨床実

習実施委員長から、今後の臨床実習で実際に診療に携わる医療人としてあるべき態度や姿勢、院内・院外での心構えなどに関して説明があり、お話の最後には、「初心を忘れずに1年間頑張ってください」とエールが送られました。

インド・サイブエサ歯科大学 (<https://saveethadental.com/departments-1>)、ネパール・カトマンズ大学医学部 (<https://kusms.edu.np/bachelor-in-dental-science/>) との部局間交流協定締結について

歯学部ではグローバル人材育成の目標の下、国際ネットワークの構築を進め、教員の学術交流、学生の交換留学を進めています。この度、インド・サイブエサ歯科大学およびネパール・カトマンズ大学医学部（歯学コース）から部局間交流協定締結の強い要望があり、手続きを進めてきましたが、この度、手続きが完了し、交流協定を締結しました。

インド・サイブエサ歯科大学はチェンナイにある私立歯科大学で、インドの歯学部で1位にランクされる歯学部で、照沼副学部長（国際担当）がチェンナイに赴き、部局間交流協定を締結しまし

た。またネパール・カトマンズ大学はネパールの首都カトマンズにある公立大学で、医学部の中に定員50名の歯学コースが設けられています。顎顔面口腔外科学分野の冨原教授が長年にわたる口腔外科手術に関する医療貢献実績を元に、この度、交流協定を締結することとなり、前田歯学部長、冨原教授がカトマンズ大学を訪問し、交流協定を締結しました。両大学とも、教員交流に加え、学生交流など幅広い交流を望んでいます。またタイ・チュラロンコン大学歯学部との部局間交流協定も更新されました。

令和4年度大学改革プロジェクト経費の採択について

この度、令和4年度大学改革プロジェクト経費の申請結果について報告があり、学系ハズオン事業として、「専門職教育の高度化」、フラッグシップ研究支援事業2件（「口腔がんに対する地域医療体制の基盤構築」、「創薬イノベーションを目指す感染症等の危機管理基盤の構築」）が採択されました。

「専門職教育の高度化」事業では、①共用試験の公的化およびデジタル教育の深化に対応した高等教育の質保証、②地域・国際連携教育によるグローバルな人材育成、③ダイバーシティーを念頭に置いた若手人材育成を行うこととしています。また「口腔がんに対する地域医療体制の基盤構築（実施主体：口腔病理学分野）」に係る取組では、

口腔細胞診を活用し、地域歯科医療を担う自治体・団体とともに、口腔がんスクリーニング実施の支援を行うとともに、口腔がん専門外来受診に結びつける地域連携システムを構築し、これを教育にも活用することで学生・若手人材の育成につなげることを目的としています。「創薬イノベーションを目指す感染症等の危機管理基盤の構築

(実施主体：微生物感染症学分野)」では、新開発のマクロライド系の免疫調節薬により、安全安心な感染性肺炎の予防治療法を開発研究し、社会への貢献と創薬イノベーションを起こすとともに、人材育成を行うことにより拠点形成を目指すものです。

2022年度海外留学支援制度 (協定派遣)の追加採択について

独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)が公募していた2022年度海外留学支援制度(協定派遣)の追加採択が通知されました。新型コロナウイルス感染症のため、学生の短期海外派遣なら

びに外国人学生の短期受入とともに、ここ2年間、中断していましたが、2023年3月を目途に派遣・受入を再開することとしました。

文部科学省医学教育課による FD講演会の開催について

令和4年11月28日に文部科学省高等局医学教育課堀岡企画官、降旗係長によるFD講演会が開催されました。講演タイトルは「歯学教育の動向等について」で、歯科医療・歯学教育をとりまく現状、歯学教育MODEL・コア・カリキュラムの改訂、共用試験の公的化、歯学教育の改善・充実、令和5年度概算要求・令和4年度補正予算等、多岐にわたる内容でした。新型コロナウイルス感染症の蔓延後、対面での開催となりましたが、会場を歯学部

講堂と第一講義室の2つに分け、両会場をオンラインでつなぎ、各室での聴衆が収容定員の半分以下になるよう感染対策に留意した上での開催となりましたが、約100名の教職員が講演を拝聴しました。またFD講演会の前には、医学教育課課員4名さらに内閣府浅野審議官が歯学部臨床実習の現場、基礎実習施設、デンタルシミュレータ、CAD/CAM実習設備を見学し、前田歯学部長らと意見交換を行いました。